

# いしゃ先生

町おこし映画顛末記

あべ 美佳

▶32

この1ヵ月の間に、いつのご披露となつた。上映後たい何人の方と握手をしただろう。「おめでとさん」「よう頑張ったな」「いがつた、いがつた」。行く先々で、こんなふうに皆さんからたたえてもらえる口が来はないが、最初に西川町を訪れた4年前には想像もできなかつた。人生は、シントイ。だからこそ面白い。

監督とプロデューサーと県内各地を回りながら、その歓迎ぶりに戸惑いつつ、感謝があふれる日々だ。

昭和の始め、へき地医療に尽力した女性医師・志田周子の生涯が、いよいよ銀幕によみがえろうとしている。封切りの11月7、8日は、俳優陣と一緒に県内の劇場を縦断舞台あいさつすることも決まつた。やつとやつと、ここまで来ました！ほんてん、ありがどきまです！

先日、われわれの夢だった映画祭にも参加がかなつた。京都国際映画祭の舞台で、一般の方々には初めて

当時の資料は……などなど、ホント真面目な女優さんだよにやあ。監督からは

「私たちがあなたが演じるオリジナルの志田周子を見

## 女優・平山あやにほれる

と語つてくれた。



彼女が演じる志田周子は、本当に素晴らしい。忘れもしない、ファーストシーンのファーストスタッフの目。役を演じていたかった

連日早朝から深夜まで撮影は続く。主演の彼女はずっと出づっぱり。役の中の周子先生が病氣で痩せた。舞台あいさつに立った。舞台あいさつには、本当に素晴らしい。忘れもしない、ファーストのとき、スタッフの目に、いくのに合わせるよう

の色が変わった瞬間を私はじてくださいました。彼女が演じる志田周子は、本当に素晴らしい。忘れもしない、ファーストのとき、スタッフの目に、いくのに合わせるよう

彼女は白衣を着て、初めて山形の地に立つた。プレッシャーもあつただろう。だつて、実在した人物を演じるのだ。しかも、地元の人々が「神さまだけ」とたたえる人物を。平山さんは、撮影に入る前、監督に質問したことでも決まつた。やつとやつと、ここまで来ました！ほんてん、ありがどきまです！

したそうだ。どんな準備をするべきいいか、読んでおい

べき。ワクワクだにやあ。大井沢の診療所で撮影（脚本家・作家・尾花沢市出身）

平山さんは、本当に素晴らしい。忘れもしない、ファーストのとき、スタッフの目に、いくのに合わせるよう

き、遠巻きに見ていた地元のばんちゃんが、白衣姿の

平山さんを見て、目に涙を浮かべていた。「ああ、大丈夫だ」と私は思った。休憩時間に、地元の小学生が

平山さんを囲んで何やら話していた。今どきの小学生はスゴイ。女優さんにもまつたく臆せず、ため口だ。

私は後ろでハラハラしながら聞いていた。「あのよ、平山さん。うちのばんちゃんが、平山さんから周子先生の役をやつてもらつて安心したぞ」「ありがとう」